

Mランドささ山校 ニュース Vol. 24

平成21年3月1日発行 篠山自動車教習所 兵庫県篠山市池上569 TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940
発行責任者 豊田文雄 HP <http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

Mランドウォッキング



豆まきに欠かせない鬼の役は抽選で

決定！手作りの衣装にみんな大うけ

■ Mランド好例となりましたイベントを行ないました。
教習終了後、ゲストとスタッフ一緒にあって、今回は節分の時期に合わせて豆まきと恵方巻き（巻き寿司）づくりをアトラクションに食事と交流を楽しみました。

Mランドささ山流豆まきは、間違つても篠山特産の黒大豆は使いません。おつまみ用の袋入りの豆や落花生。掛け声も「福は内々 鬼も内々」と、鬼も決して仲間はずれにはいたしません。みんな揃つてソウルメイトです。愛嬌ある赤鬼二人？（実は直前に行なったダーツの抽選で当たつた井階所長と柴田INS）めがけての豆まきもヘルメットを利

用してのかぶり物だけに投げる側は遠慮がありません。

戦とし、出来上がりをみんなで判定しましたが、結果は女性軍の圧倒的勝利でした。

恵方巻きづくりは男女対抗で、出来上がりをみんなで判定しましたが、結果は女性軍の圧倒的勝利でした。

シルバー・ドライバーズ・スクール開催



アツアツのしし汁のサービスをする
宮林リーダー（中央）と井本リーダー

食事には篠山名物シシ汁も出され、アツアツをいただき



初めての巻き寿司づくり挑戦を
実況放送する井本リーダー（中央）

入、笑顔満開でした。

■講義のテーマ「視覚」の
一コマを抜粋ご紹介します。



シミュレーターによる適正診断

と参加された方は、時に笑いもありながらでしたが真剣に受講していただきました。当

日は、ABC朝日テレビ「NEWS ゆう」の取材が入り、その様子は2月16日夕方の番組で放送されました。

講義・運転実地・適正診断

方々を対象に高齢運転者向け交通安全講習会を開催しました。

○不注意性錯覚

運転は、認知・判断・操作の繰り返しですが、速度に応えられた方にサプリライズで「ミロ」から特製のチョコレートケーキがプレゼントされ、みんなから祝福を受ける一幕もありました。ゲストのみなさんは一層仲良しモードに入、笑顔満開でした。

ある方には昨年の法改正によ

る条件が緩和されました。視覚については一定の基準を満たさない限り運転することはできません。今日は、ご高齢の方だからというのではなく、「視覚・見る」ということについて一緒に勉強してみたいと思います。

「幽靈の正体見たり枯れ尾花」と昔から言いますが、恐怖や期待などの心理状態が知覚に影響を与えます。

○感動錯覚

錯覚で、見間違いなど日常経験する多くの間違いです。

■講義のテーマ「視覚」の
一コマを抜粋ご紹介します。

運転は、認知・判断・操作の繰り返しですが、速度に応じそれが機敏かつ円滑にして正確に行なわれなければ、身はいつも危険と隣り合います。そのためにはまわりをよく見て、互いに認め合い譲り合ふことが大切だと思います。

結果1・0とか0・5などで目が良いとか悪いとか言いいますが、これは一つの物をジッピングするときの視力、注視点視力と言います。運転などの場合は、たくさん情報を取りこぼさず、しかも相手が動くだけでなく、自分も動くわけですから、運転する人の目は相当な動きが必要となります。だから疲れますよ。

○生理的錯覚

幾何学模様などある一定の配置や状態にあると起こる錯覚で、誰にでもほぼ等しく起ります。

○パレイドリア

雲の形が動物に見えたり、壁のシミが人の顔に見えたり、一度そう感じるとなかなかその知覚から逃れられません。

（豊田文雄）

Mランド運転免許（三）



仲間やスタッフに見送られ、

笑顔あり涙ありの旅立ち風景

■「運転免許取得はどこで教習所に行つても同じ」というわけではありません。

指定自動車教習所は法で定められた一定の要件の中で運営され、効果も技能試験が免除され、そういう意味では国内どこに行っても同じです。しかし、企業としての考え方、思想が理念や運営方針、対応の違いとなって現われています。それは人数や金額など数値だけではなくなか測れるものではありません。

例えば、卒業の時、別れを惜しんで涙を流す光景が見られる教習所というのもあるのです。免許取得は一生に一度。教習所選びもできる時代です。

勇気と希望をもって旅立つゲストに心から願う私たちのメッセージです。

Mランドを卒業しても
Mランドを卒業しても
最高の運転をしよう

寒風の中でも、はつらつとして道路のゴミ拾いをして、ひとが嫌がりそうなり、 ireの便器を笑顔で磨いている若者があります。また、すれ違った人たちに笑顔で挨拶を交わす様子を見ると、「今どきの若者は……」と思っている人にはなんとも不思議な光景を目にすることがあります。

トイレ掃除や近隣清掃などボランティア活動は日々の新しい発見につながります。これらを通じて、友だちをつくったり、温かい心、思いやりの心を学んだりすることになります。そして卒業するときには、今までと「ちょっと変わった自分」を実感できるのです。

田さんの食養講座

第五回（最終回）

ライフハーモニー
教育研究所所長

位田 隆久

「幸福は口福から」

食べることは本能です。

生きることは食べることです。人間にとつて食べ物は、単なる餌ではなく、豊かな食文化と共にあります。生き方が大切なよう

うに、食べ方も大切です。食事作法を忘れ、伝統食を失うことは大きな問題です。同時に、食べ物が豊富にある日常は、食欲のコントロールを難しくします。食べ過ぎの危険です。論語に「過ぎたるは猶及ばざるが如し」とあります。「過ぎたるは及ばざるに劣れり（二宮尊徳）」「及ばざるは過ぎたるに勝れり（徳川家康）」、さらに「過ぎたるは及ばざるより猶悪し

ます。生き方を学んだり、胸へ、頭に入ってきた言葉で考えます。頭から胸へ、

臍下丹田へと全身で受け止めた言葉は、それを吟味し、味わい、さらに発酵させることによって自分の言葉になります。時

間をかけじっくりと考えず、話したり書いたりすると言葉が消化不良を起こします。言葉によつて励まされ、癒され、幸せになる反面、言葉によつて傷つけ合うのが人間です。口から出る言葉と、

口から入る食べ物を大切にしましょう。健康と幸

福は「口福」からです。

ところで、健康は食だけでは守れません。体の

健康も、食べて排泄、動いて睡眠、「食出動眠」の循環にあります。そして、

気分が滅入るとすぐに体に変調を来す、心身一如

した。食を含め、何事も過ぎるのはご用心です。

さて、食べ物は口から入りますが、口から出るのは言葉です。食べ物は体の中で消化され吸収され排泄されるまでに時間がかかります。私達は、見たり読んだり聞いたりして頭に入ってきた言葉で考えます。頭から胸へ、

見て頭に入ってきた言葉で考えます。頭から胸へ、見て頭に入ってきた言葉で考えます。頭から胸へ、

見て頭に入ってきた言葉で考えます。頭から胸へ、見て頭に入ってきた言葉で考えます。頭から胸へ、

最後に古歌を紹介します。「欲深き人の心と降る雪は積もるにつれて道を失う」。先人の言葉を味わつて下さいませ。

五回に亘る食養講座、ご愛読ありがとうございました。合掌百拜。

※第三回で、食料自給率39%と書きましたが、最新の統計では1%上昇して40%に少し回復していることを付記します。

3月1日は、篠山の春を見ると大きな雪だるまを前にポーズを決めるゲストの写真がありました。今年は除雪するほどの雪も降らず

私たちにすれば大変助かりました。2月でした。

■昨年のニース3月号を見ると大きな雪だるまを前にポーズを決めるゲストの写真がありました。今年は除雪するほどの雪も降らず私たちにすれば大変助かりました。ありがとうございます。

3月1日は、篠山の春を見上げようと思える準備をしています。街をあげてのおもてなし。篠山の街の魅力の一つとも言えます。

の存在としての私達にとって、心の健康はさらに重要です。健康は総合的、全一的課題です。日々の暮らし方、人生の歩み方、そして生命を含めた動的な調和を「ライフハーモニー」といいます。健康にはライフハーモニーが大きく関係し、食と言葉にはその重要な要素です。

編集後記

■位田先生の食養講座（五回シリーズ）が最終回とな

りました。「食」という文字は、「人を良くする」と書きます。幸福な人生は私たちにはライフケアモニーが最も身近な食にあること

を教えていただきました。



1949年兵庫県高砂市生まれ

社会教育家（元報徳学園校長）

◆位田隆久先生紹介◆



春の陽射に紅梅燃ゆ

（文）